

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	同志社	大学名	同志社大学
研究プロジェクト名	クリエイティブ・エコノミー発展のための基盤形成のための調査・研究		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

グローバル経済の進展により、競争の激化と所得と富の二極化が深刻化している。このような現代においては、「市場価値のある創造性」が経済競争力の源泉となっていく。今後「クリエイティブ・エコノミー（創造経済）」すなわち「社会的価値のある知識創造を促進し、その知識を活用しながら生活の質を向上させるシステム」の研究と政策提言が重要になってくる。本研究はこれまで個別テーマに偏る先行研究を超え、知識創造を産業競争力、生活の質に結びつける場としての「創造都市」、知識創造を産業競争力、生活の質、国家ブランド向上に繋げる映像や音楽などの「創造産業」の育成策も含めた包括的研究をグローバルな視点から進める。21世紀の日本の経済競争力を戦略的に強化し、国民生活の質を向上させるために、市場価値のあるイノベーションをもたらす創造性に関する研究と、グローバル市場における市場拡大戦略に関する研究は今後の経済社会発展に大きな意義を有する。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

テーマ1: R&D とイノベーションに関する研究

本研究部門では、市場において価値を持つ R&D とイノベーションとは何かという問題を研究してきた。ビッグデータ研究会は、インターネット上の情報からイノベーションシーズを探索するシステムを構築することを目的に、研究及び議論を行ってきた。映画レビューのテキスト情報から鑑賞者の評価決定要因を抽出する研究等は、すでに審査員付き学術雑誌に掲載されている。研究会での議論を通じて解明されてきた点として、感情情報をどのように抽出し、それをどのようにイノベーションに結びつけるかという課題であった。この問題を議論するために、公開シンポジウム「心理・行動・生体情報融合データ科学シンポジウム」(2015年11月21日)を開催している。このシンポジウムでの議論を踏まえて、現在、ツイッターデータと紐付けられたアンケート調査によって、テキスト情報の特性とパーソナリティとの連結を行う研究を進めている段階にある。

テーマ2: 創造都市研究部門

本研究部門では、市場で価値を持つイノベーションを生み出す経済社会とは何かという問題に対して、「人間性と精神性に基づく創造経済」という概念を提示し、研究を続けている。この研究は、元ユネスコアジアディレクターであるステファン・ヒル教授とアーティストであるツトム・ヤマシタ氏に研究協力頂き、国際的なレベルで Springer からの出版をターゲットに、精力的に研究活動を進めている。この研究に関しては、公開シンポジウム「多文化共生に関するシンポジウム」(2014年6月10日)、公開シンポジウム「多文化共生に関するシンポジウム2 “Being Now” 共同体と人間性と聖なるもの」

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

(2015年6月8日)、講演会およびインスタレーション「命、生命の不思議な旅の物語」(2016年2月27日)を開催している。

また、創造都市形成に関する研究会では、アートによる社会的包摂と文化融合をテーマに研究を進めており、公開シンポジウム「異文化受容による新芸術創造 - 都市に求められる多様性の本質」(2015年11月7日)を開催した。

テーマ3: 国家ブランディング研究部門

本研究部門では、コンテンツ産業の現代的課題とこれからの戦略をテーマにした研究会と、伝統文化の現代的創造をテーマとした研究会からなっており、前者の研究会では国際ワークショップ「グローバル化する文化創造 - 創造産業政策の今後」(2013年12月15日、16日、2014年7月9日-11日)を開催し、公開シンポジウム・ワークショップ「世界から見た日本の真髄 - 秘められたる日本文化の無限の可能性 -」(2014年11月2日、3日)、公開シンポジウム「今に生きる万葉 額田王 - 音楽と語りによる創作ステージ -」(共催 2014年12月23日、24日)、公開シンポジウム「古典の美が創る京都の魅力」(2015年10月10日)を開催している。また、能の世界的発信を目的として、オープンコースウェアの開発を進めている段階にある。

テーマ4: 創造経済における幸福感

本研究部門では、創造的活動を人々の幸福感に結びつけるために必要な政策について、様々な観点から研究を進めてきている。格差社会における学歴と人材育成について議論した、公開シンポジウム「学歴社会の実像と虚像」(2013年11月4日)、公開シンポジウム「目指すべき未来社会と望ましい人材育成政策」(2014年5月25日)を開催するとともに、幸福感の高い社会を構築するためのソーシャルビジネスの役割について議論をした公開シンポジウム「ソーシャルビジネスと信頼を基盤とした社会の構築～リスク社会を乗り越えるための試み～」(共催 2015年5月9日)を開催した。

また、本部門では大阪ガスとの連携によって、スポーツと幸福感との関連について分析を進めており、サーベイ調査に基づく研究を基礎に、公開シンポジウム「幸福感に繋がるヘルシーライフスタイルを考える」(2016年3月3日)を開催した。

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

平成25年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究進捗状況報告書

- 1 学校法人名 同志社 2 大学名 同志社大学
- 3 研究組織名 創造経済研究センター
- 4 プロジェクト所在地 京都市上京区今出川通烏丸東入
- 5 研究プロジェクト名 クリエイティブ・エコミー発展のための基盤形成のための調査・研究
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
河島伸子	経済学研究科	教授

- 8 プロジェクト参加研究者数 20 名

- 9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 **人文・社会**

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
和田 元	理工学研究科・教授	高市場価値イノベーションとR&D基盤に関する調査・研究	市場価値の高いR&Dを進めるためのシステム構築を提示
藤本 昌代	社会学研究科・教授	高市場価値イノベーションとR&D基盤に関する調査・研究	R&Dのキャリアパス研究に基づく創造的人材育成政策の提示
竹廣 良司	経済学研究科・教授	高市場価値イノベーションとR&D基盤に関する調査・研究	多様性が創造性を決定するプロセスを含めた最適企業組織の提示
宿久 洋	文化情報学部・教授	高市場価値イノベーションとR&D基盤に関する調査・研究	ビッグデータによるイノベーションシーズの探索システムの構築
佐々木 一郎	商学部・准教授	高市場価値イノベーションとR&D基盤に関する調査・研究	保健市場の効率性向上とビッグデータの活用
川浦 昭彦	政策学部・教授	創造的人材を吸引する創造都市形成に関する調査・研究	創造都市における創造的人材吸引と育成のための政策の提示
伊多波 良雄	経済学研究科・教授	創造的人材を吸引する創造都市形成に関する調査・研究	創造的人材を吸引する創造都市形成に関する調査・研究
佐々木 雅幸	経済学研究科・教授	創造的人材を吸引する創造都市形成に関する調査・研究	創造都市社会資本整備の費用便益分析に基づく都

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

			市形成戦略の提示
西村 卓	経済学研究科・教授	国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究	伝統産業の国家ブランディングへの活用法に関する政策提言
河島 伸子	経済学研究科・教授	国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究	研究統括・コンテンツ産業の構造分析による産業発展戦略の提示を行う
八木 匡	経済学研究科・教授	国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究	コンテンツ産業と製造業との協働に基づく市場拡大戦略の提示
植木 朝子	文学部・教授	国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究	古典及び伝統芸能の現代的活用
岩坪 健	文学部・教授	国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究	古典及び伝統芸能の現代的活用
垣見 修司	文学部・准教授	国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究	古典及び伝統芸能の現代的活用
奥田 以在	経済学部・准教授	国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究	古典及び伝統芸能の現代的活用
尾嶋 史章	社会学研究科・教授	創造経済における生活の質向上に関する調査・研究	階層移動と生活の質に関する関連性の研究と政策提言
橘木 俊詔	京都女子大学・現代社会学部・客員教授	創造経済における生活の質向上に関する調査・研究	社会保障制度と生活の質との関連性分析による政策提示
川口 章	政策学部・教授	創造経済における生活の質向上に関する調査・研究	創造性向上を重視した労働市場と雇用制度のあり方に関する政策提示
宮澤 和俊	経済学研究科・教授	創造経済における生活の質向上に関する調査・研究	コミュニティ機能と生活の質との関連性分析による政策提示
横山 勝彦	スポーツ健康科学部・教授	創造経済における生活の質向上に関する調査・研究	スポーツによる社会関係資本醸成システム研究及び幸福感への影響分析
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

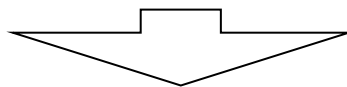
旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
---------------	-------	-------	------------

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

--	--	--	--

(変更の時期:平成 25 年 7 月 9 日)



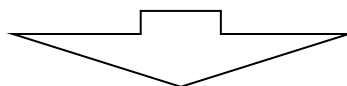
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学部国文学科・教授	植木朝子	国家ブランディング研究分野における古典及び伝統芸能の現代的活用
	文学部国文学科・教授	岩坪 健	国家ブランディング研究分野における古典及び伝統芸能の現代的活用
	文学部国文学科・教授	真銅正宏	国家ブランディング研究分野における古典及び伝統芸能の現代的活用
	文学部国文学科・准教授	垣見修司	国家ブランディング研究分野における古典及び伝統芸能の現代的活用

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



新

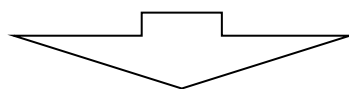
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
同志社大学特別研究員	経済学部・准教授	奥田 以在	古典及び伝統芸能の現代的活用
スポーツ健康科学部教授	スポーツ健康科学部・教授	横山 勝彦	スポーツによる社会関係資本醸成システム研究及び幸福感への影響分析
文化情報学部教授	文化情報学部・教授	宿久 洋	ビッグデータによるイノベーションシーズの探索システムの構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 26 年 6 月 1 日)

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010



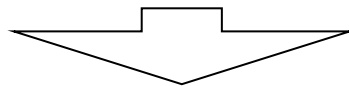
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
商学部准教授	商学部・准教授	佐々木 一郎	保健市場の効率性向上とビッグデータの活用

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究	同志社大学 文学部・教授	真銅 真宏	古典及び伝統芸能の現代的活用

(変更の時期:平成 26 年 6 月 13 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
同志社大学 文学部・教授		真銅 真宏	

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

目的・意義:

創造性が経済競争力の源泉となるグローバル経済において、創造性を促進する経済システムに関する基礎的研究が求められている。これまで、創造都市論など個別の問題については既存の研究があるが、これらを統合的に扱う基礎的研究はほとんど行われておらず、この点において、本研究プロジェクトの先進性と独創性がある。

特に個別の研究テーマをクロス・オーバーする、R&D の人材育成(個別研究テーマ1)と創造都市の戦略(同2)をどのように結びつけるのかという問題と、市場価値の高い R&D を進めるためのシステム構築(同1)と市場価値向上のための創造産業の活用(同3)の問題が重要である。

5 年間の研究期間において、上記の問題意識をベースに、個別領域では以下の課題に取り組んでいく。

テーマ 1: 高市場価値イノベーションと R&D 基盤に関する調査・研究

ライフスタイル革新をもたらし、製品の市場価値に結びつく研究開発とは何かを明らかにし、研究開発の市場価値と公共的価値、そしてリスクを含めた社会的価値を評価する手法を開発する。

テーマ 2: 創造的人材を吸引する創造都市形成に関する調査・研究

経済競争力の強化と都市における戦略的投資との好循環を生み出していくための政策を明らかにし、創造的人材を吸引するための社会資本整備と人材育成システムを具体的に提案する。安定的な都市財政基盤の構築と投資流入を促進する戦略についても提言する。

テーマ 3: 国家ブランディングを高める創造産業の育成に関する調査・研究

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

経済のグローバル化の進展に伴って、ユニバーサルな価値観とローカルな価値観のバランスが、自国財のグローバル市場における受容性に影響を与えることになる。創造産業の中でも、コンテンツ産業の重要性は大きくなっている。国家ブランディングに資するよう、コンテンツ産業の活用戦略について提言を行う。

テーマ 4: 創造経済における生活の質向上に関する調査・研究

コミュニティ機能の活性化は、コミュニケーションの向上をもたらし、新しいアイデアをもたらし、新しいネットワーク形成を可能にする。コミュニティ機能と創造的活動との関連を詳細に検討することにより、創造都市形成に必要な政策を明らかにする。

<年次計画>

【平成 25 年度】創造経済の特徴を明確にし、各研究領域別に理論モデルの構築を行う。そして理論研究の成果を基に、実証分析の実施準備を進める。

【平成 26 年度】理論研究を基にした、実証分析とケーススタディを進める。それぞれのプロジェクトにおいて研究会および国際ワークショップ(以降、毎年度)を開催する。国際ワークショップの開催により、本研究拠点を国際的なものとしていく。国際ワークショップでの招聘研究者と共に、海外拠点の形成と、海外拠点との研究協力体制を確立する。

【平成 27 年度】年度末に、3 年間の研究成果を総括し、創造経済に関する公開シンポジウムを開催する。

【平成 28 年度】研究成果全体を総括する方法について議論し、それを単行本として出版する準備を開始する。

【平成 29 年度】5 年間の成果を総括する公開シンポジウムを開催する。成果を単行本として出版する。

(2) 研究組織

創造経済研究センター

(3) 研究施設・設備等

良心館 2 階 共同研究室

(4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

テーマ 1: 高市場価値イノベーションと R&D 基盤に関する調査・研究

本研究部門では、市場において価値を持つ R&D とイノベーションとは何かという問題を研究してきた。ビッグデータ研究会は、インターネット上の情報からイノベーションシーズを探索するシステムを構築することを目的に、研究及び議論を行ってきた。映画レビューのテキスト情報から鑑賞者の評価決定要因を抽出する研究等は、すでに審査員付き学術雑誌に掲載されている。研究会での議論を通じて解明されてきた点として、感情情報をどのように抽出し、それをどのようにイノベーションに結びつけるかという課題であった。この問題を議論するために、公開シンポジウム「心理・行動・生体情報融合

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

データ科学シンポジウム」(2015年11月21日)を開催している。このシンポジウムでの議論を踏まえて、現在、ツイッターデータと紐付けられたアンケート調査によって、テキスト情報の特性とパーソナリティとの連結を行う研究を進めている段階にある。本部門の達成度は、概ね計画通りであると判断している。

テーマ2: 創造的人材を吸引する創造都市形成に関する調査・研究

本研究部門では、市場で価値を持つイノベーションを生み出す経済社会とは何かという問題に対して、「人間性と精神性に基づく創造経済」という概念を提示し、研究を続けている。この研究は、元ユネスコアジアディレクターであるステファン・ヒル教授とアーティストであるツトム・ヤマシタ氏に研究協力頂き、国際的なレベルで Springer からの出版をターゲットに、精力的に研究活動を進めている。この研究に関しては、公開シンポジウム「多文化共生に関するシンポジウム」(2014年6月10日)、公開シンポジウム「多文化共生に関するシンポジウム 2 “Being Now” 共同体と人間性と聖なるもの」(2015年6月8日)、講演会およびインスタレーション「命、生命の不思議な旅の物語」(2016年2月27日)を開催している。

また、創造都市形成に関する研究会では、アートによる社会的包摂と文化融合をテーマに研究を進めており、公開シンポジウム「異文化受容による新芸術創造 - 都市に求められる多様性の本質」(2015年11月7日)を開催した。本部門の達成度は、概ね計画通りであると判断している。

テーマ3: 国家ブランディングを高める創造産業の育成に関する調査・研究

本研究部門では、コンテンツ産業の現代的課題とこれからの戦略をテーマにした研究会と、伝統文化の現代的創造をテーマとした研究会からなっており、前者の研究会では国際ワークショップ「グローバル化する文化創造 - 創造産業政策の今後」(2013年12月15日、16日、2014年7月9日-11日)を開催し、公開シンポジウム・ワークショップ「世界から見た日本の真髄 - 秘められたる日本文化の無限の可能性 -」(2014年11月2日、3日)、公開シンポジウム「今に生きる万葉 額田王 - 音楽と語りによる創作ステージ -」(共催 2014年12月23日、24日)、公開シンポジウム「古典の美が創る京都の魅力」(2015年10月10日)を開催している。また、能の世界的発信を目的として、オープンコースウェアの開発を進めている段階にある。本部門の達成度は、概ね計画通りであると判断している。

テーマ4: 創造経済における生活の質向上に関する調査・研究

本研究部門では、創造的活動を人々の幸福感に結びつけるために必要な政策について、様々な観点から研究を進めてきている。格差社会における学歴と人材育成について議論した、公開シンポジウム「学歴社会の実像と虚像」(2013年11月4日)、公開シンポジウム「目指すべき未来社会と望ましい人材育成政策」(2014年5月25日)を開催するとともに、幸福感の高い社会を構築するためのソーシャルビジネスの役割について議論をした公開シンポジウム「ソーシャルビジネスと信頼を基盤とした社会の構築～リスク社会を乗り越えるための試み～」(共催 2015年5月9日)を開催した。

また、本部門では大阪ガスとの連携によって、スポーツと幸福感との関連について分析を進めており、サーベイ調査に基づく研究を基礎に、公開シンポジウム「幸福感に繋がるヘルシーライフスタイルを考える」(2016年3月3日)を開催した。

本部門の達成度は、概ね計画通りであると判断している。

<特に優れた研究成果>

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

- ・ T. Tachibankai eds. *Advances in Happiness Research: A Comparative Perspective*, Springer, January 2016.
- ・ Yagi, T. “Determinants of Movie Review Ratings: New method by using Big Data” (with Seiya Murata), *Journal of Business and Economics*, February 2015, Volume 6, No. 2, pp. 231-243, DOI: 10.15341/jbe(2155-7950)/02.06.2015/001.

<問題点とその克服方法>

第1部門のビッグデータ研究会では、感情情報をどのように価値ある情報として処理をするかについて多くの問題点があった。本研究グループでは、ツイッター情報からテキストマイニングの手法により文章特性を明らかにし、紐付けられたサーベイ調査によって文章特性とパーソナリティとの関連性を明確化する方法を採用することとなった。

第2部門では、イノベーションの市場価値の本源的要素として人間性と精神性にあると考え、創造性がどのように人間性及び精神性と結びつくかについて研究をおこなってきた。この段階で、宗教という問題を回避することができなくなり、仏教を初めとした専門家およびアーティストの協力を得ることとなり、それによって研究の精度を上げることが可能となった。

第3部門では、能の本質を国際的に発信することの困難さが明確になり、この問題を解決するために、ハーバード大学名誉教授であるジェイ・ルービン教授の協力を得ることとなった。

第4部門では、スポーツの幸福感に与える影響をどのような社会的枠組みで高めることができるのかという課題が明確になった。この点については、北京五輪銅メダリストである朝原宣治氏に協力を要請し、氏が進めているNPO活動を事例に研究を深化させていった。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

第2部門では地域社会との連携が不可欠であり、地域コミュニティの活性化のための仕組み作りを地域住民と進めている中で、京都デザインウィークとの協働および今宮神社織姫祭再興といった具体的なプロジェクトが進展した。このプロジェクトに対して、世界的なレベルで関心が集まり、今宮神社でのインスタレーションをはじめとして世界的トップアーティストとの協働プロジェクトがスタートしている。

<今後の研究方針>

第1部門では、感情情報および生体情報をリンクさせたビッグデータ解析と、イノベーションシーズの探索システムの構築を進める。

第2部門では、人間性と精神性を基盤とした創造経済の構築に関する、理論的分析を進める。

第3部門では、日本文学の最も秀逸した古典である源氏物語の現代的活用に関する研究を進め、国際的発信を行う仕組みを研究する。

第4部門では、文化・スポーツを幸福感に結びつけるための政策について、更なる研究を続ける。

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

<今後期待される研究成果>

第1部門では、感情情報および生体情報をリンクさせたビッグデータ解析によって、消費者はどのような財・サービスの特性に対して最も敏感に反応し、購買行動を大きく変化させるかを明らかにすることが可能になると予想している。例えば、ホテル需要において、客室のカビ・臭いがホテルに対する評価を決定的に下げることが示されれば、ホテルの最適維持管理戦略に対して、重要な示唆を与えることができる。

第2部門では、人間性と精神性を基盤とした創造経済の構築に関する、理論的分析を進める。この研究は、創造経済の長期的持続可能性を決定するものであると理解しており、社会における規範形成メカニズムの解明にも繋がると理解している。

第3部門では、日本文学の最も秀逸した古典である源氏物語の現代的活用に関する研究を進め、国際的発信を行う仕組みを研究する。これまで源氏物語の活用は、部分的な源氏物語の切り売りの側面が強く、源氏物語の世界観の発信が十分に行われてきていないと理解している。この源氏物語の世界観のグローバル発信により、日本文化の本質に対する国際的理解が促進されると期待している。

第4部門では、文化・スポーツを幸福感に結びつけるための政策について、更なる研究を続ける。この研究によって、これまで以上に文化・スポーツの社会的活用が進み、芸術家およびアスリートの社会における役割を高めることができると共に、芸術家及びアスリートの所得源泉を確保することが可能となる。

<自己評価の実施結果及び対応状況>

全ての部門において、概ね順調に研究を遂行しており、着実なる成果を挙げている。

<外部（第三者）評価の実施結果及び対応状況>

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 創造経済 (2) ビッグデータ (3) 感情情報
 (4) 人間性 (5) 創造都市 (6) 社会的包摂
 (7) 国家ブランディング (8) 幸福感

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

テーマ1:

- ・藤本昌代「内部労働市場における科学技術系専門職の就業構造」『クオリティ・エデュケーション』第5号, pp.13-28, 2013年4月
- ・藤本昌代・浦坂純子・森山智彦「続・留学生の就職活動におけるソーシャル・サポートと自律性」『評論・社会科学』第110号, pp.69-104, 2013年9月
- ・藤本昌代「高流動性社会における就業者の組織への忠誠心と互酬性— 米国西海岸シリコンバレー」

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

一の専門職の転職行動から -』『ソシオロジ』, 60(1), pp3-21, 2015年6月

- ・藤本昌代「グローバル社会での質実剛健な家族主義と信頼 - ブラザー工業(株)の経営理念の継承と伝播 -」甲南大学総合研究所プロジェクト『アジア企業における経営理念の生成・伝播・継承に関する研究報告書』, 2016年3月掲載予定
- ・竹廣良司「企業グループにおける企業間関係が利益率に与える影響」『経済学論叢(同志社大学)』第65巻第4号, 2014年3月
- ・Wada, M. Yassine Ben Salah, Mercy Anna Nuamah. "Boosting Companies' Potential for Technological Innovation", The Science and Engineering Review of Doshisha Univeristy, Vol. 55 No. 2, July 2014.
- ・佐々木一郎「生命保険の販売チャネル選択に関する要因分析」、『生命保険論集』(生命保険文化センター)、186, pp.37-55, 2014年3月
- ・佐々木一郎「インターネットチャネル選択のデータ分析 - 民間生命保険商品のケース -」、『生命保険論集』(生命保険文化センター)190号, pp.61-77, 2015年3月
- ・佐々木一郎「年金未納と公共料金滞納行動」、『日本年金学会誌』(日本年金学会)、第34号、pp.18-27、2015年4月

テーマ2:

- ・伊多波良雄・塩津ゆりか「公的年金制度と幸福度の関係に関する分析」『日本年金学会誌』第32号, 2013年7月, 24-31ページ
- ・伊多波良雄「マクロ経済学入門 スポーツの経済効果をどのように測るか」(特集 スポーツで入門! 経済学)、『経済セミナー』2013年4・5月号, 平成25年5月, 27-31ページ
- ・伊多波良雄「幸福度分析に基づく財政活動の評価分析」『経済学論叢』第65巻第1号, 2013年7月, 131-150ページ
- ・伊多波良雄「地域政策としての“まつり”」『地方議人会』44(3), 2013年8月, 13-16ページ
- ・伊多波良雄・有吉忠一「スポーツ観戦需要の要因分析について」(同志社大学)第65巻第3号, 2014年3月, 47-74ページ
- ・伊多波良雄・壁谷順之「法人事業税の外形標準課税制度と税収の地域間格差」(同志社大学)第65巻第4号, 2014年3月, 1-27ページ
- ・伊多波良雄・山崎その・宮嶋恒二との共著 大学経営の実態(その1)「大学経営効率化」に関するアンケート調査結果から -』『大学行政管理学会誌』2013, pp.31-43
- ・伊多波良雄・山崎その・宮嶋恒二「大学における就職支援の効率性評価」『研究論叢』(京都外国語大学)第83巻, 2014年, 367-386ページ
- ・伊多波良雄編著「財政のあゆみ」『京都市政史 第3巻』(京都市), 2014年3月, 1-344ページ
- ・伊多波良雄・山崎その・宮嶋恒二「大学のガバナンスと経営効率性」『経済学論叢』第66巻第3号, 2014年12月, 1-19ページ
- ・伊多波良雄・八木匡・林智子「税負担と行政サービス意識に関する経済分析」『会計検査研究』第51号, 2015年3月, 11-31ページ
- ・伊多波良雄「地域間移動は所得と生活の満足度を引き上げるか?」『経済学論叢』第67巻第1号, 2015年7月, 1-16ページ
- ・Itaba, Y. "Evidence of the Effect of Local Government Size on Happiness in Japan," Proceedings of the 71th Annual Congress of the International Institute of Public Finance, Dublin, Ireland, 2015, Oct.

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

- ・伊多波良雄・山崎その・宮嶋恒二「DEA Malmquist 生産性指数を用いた大学経営の分析
「-大学経営効率化」に関するアンケート調査結果から-」『経済学論叢』第 68 巻 1 号, 近刊
- ・川浦昭彦「クリーブランド大統領による銀購入法撤廃:政策の選択肢と政治的リーダーシップの関係
の考察」『同志社政策科学研究』第 16 巻(第 1 号), 2014 年 9, 61-69 ページ
- ・川浦昭彦「19世紀末のハワイの米国編入に見る市場統合への抵抗:現代のアンチ・グローバリズ
ムの萌芽」『同志社政策科学研究』第 17 巻(第 1 号)、2015 年 3 月、85-92 ページ
- ・Kawaura, A. "A tale of two duopolies: Collusion and exit in a local airline industry"
Applied Economics Letters, Vol. 22, No. 8, June 2015, pp. 664-667.
- ・Sasaki, M. "Cultural Cluster and Cityscape in Kanazawa and Yokohama" 『季刊 経済学研
究』 36 巻 1.2 号 pp.59-78, 2014 年
- ・佐々木雅幸「伝統工芸と創造都市: 京都と金沢からの創造」『地域開発』 602 号, pp.18-24,
2014 年 11 月
- ・佐々木雅幸「対談, 今なぜ地域の視点に立つ地域創造か」『社会教育』 59 巻 1 号, pp.5-14,
2015 年 1 月(佐藤一子・東京大学名誉教授との対談)
- ・佐々木雅幸「包摂型創造都市・大阪」『都市文化研究』 大阪市立大学都市文化研究センター17
号, pp.119-128, 2015 年 3 月
- ・Sasaki, M. "Creative Cities of the 21century: Their Diversity and Network" The Doshisha
University Economic Review, Vol.67 NO.4 2015

テーマ 3:

- ・Yagi, T. Hirata, J., Nishimura, K., Urasaka, J. (2013), "Mathematics & Science
Education and Income: An Empirical Study", Journal of Reviews on Global Economics,
2013, 2, pp.1-8.
- ・Yagi, T. Hirata, J., Nishimura, K., Urasaka, J. "Annual Incomes of University Graduates
and their Science Studies during High School Periods" , Recent Advances in Modern
Educational Technologies, edited by Hamido Fujita and Jun Sasaki,pp.42-45, WSEAS
Press, April 2013
- ・Yagi, T. Takashima, C., Usui, Y. (2013), The Income Security System in Japanese
Traditional Performing Arts: A strategy for utilizing the nation's traditional arts
resources, Journal of Modern Auditing and Accounting, May 2013, Vol. 9, No. 5, pp.
697-710
- ・Yagi, T. "Knowledge Creation By Consumers and Optimal Strategies of Firms, "Journal of
Knowledge Economy, DOI 10.1007/s13132-014-0195-6, Published on line Feb.27, 2014.
- ・Yagi, T. "Determinants of Movie Review Ratings: New method by using Big Data" (with
Murata, S.), Journal of Business and Economics, February 2015, Volume 6, No. 2, pp.
231-243
- ・Yagi, T. "Determinants of Movie Review Ratings: New method by using Big Data" (with
Seiya Murata), Journal of Business and Economics, February 2015, Volume 6, No. 2, pp.
231-243, DOI: 10.15341/jbe(2155-7950)/02.06.2015/001.
- ・八木匡・林智子・伊多波良雄「税負担と行政サービス意識に関する経済分析」、『会計検査研究』第
51 号(2015 年 3 月)、pp.11-31.
- ・Yagi, T. Nishimura, K., Hirata, J., Urasaka, J. (Oct. 2015), "Basic Morality and Social

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

- Success in Japan,” Journal of Informatics and Data Mining, Vol.1, No.1:6, 1-10,
- ・西村 卓「日中戦争期における豆腐行商人の生活—豆腐店主・入山音次郎の日記—」『経済学論叢』(第66巻第3号)1-99ページ, 2014年
 - ・西村 卓「日中戦争における豆腐行商人の生活」『経済学論叢』第66巻第1号 1-64ページ、2014年
 - ・西村 卓「安永七(一七七八)年における境界論争・幕領・寺社朱印地における争論—」『経済学論叢』第66巻 第1号 65-97ページ 井ヶ田良治、新谷弘と共著、2014年
 - ・植木朝子 中世歌謡の燕—情愛の鳥・仏心の鳥・吉祥の鳥—磯水絵編『論集 文学と音楽史—詩歌管絃の世界』(和泉書院)、155頁~174頁、2013年6月
 - ・植木朝子 『梁塵秘抄』の職人たち—博打・土器造をめぐって—藤原良章編『中世人の軌跡を歩く』、271頁~291頁、2014年3月
 - ・植木朝子 妙見信仰の今様—『梁塵秘抄』二八七番歌をめぐって—『同志社国文学』第八十一号、79頁~89頁 2014年11月
 - ・植木朝子 『梁塵秘抄』に見る流行と聞き手への意識~文学的観点から~ 藝能史研究』第二一〇号、18頁~35頁、2015年7月
 - ・植木朝子 鴨居玲と『閑吟集』小歌、『同志社国文学』第八十三号、66頁~77頁、2015年12月
 - ・植木朝子 『梁塵秘抄』法華経二十八品歌と釈教歌、経旨絵(その二)、『文化学年報』第六十五号、2016年3月(予定)
 - ・植木朝子 歌語「夕顔」小考、『同志社国文学』第八十四号、2016年3月(予定)
 - ・岩坪健 「源氏物語における絃楽器のジェンダー —男性性の楽器と女性性の楽器—」同志社大学「社会科学」、第43巻4号、1-17ページ、2014年2月・
 - ・岩坪健 「源氏物語画帖『源氏御手かゝみ』(同志社大学所蔵)の紹介」、「同志社国文学」、第81号、57-66ページ、2014年11月
 - ・岩坪健 「同志社大学所蔵 源氏物語絵の紹介」、「同志社国文学」、第84号、183-190ページ(予定)、2016年3月予定
 - ・岩坪健 「『三玉挑事抄』注釈 雑部(二)」、同志社大学「人文学」、第192号、135-180ページ、2013年11月
 - ・岩坪健 「『三玉挑事抄』注釈 春部(上)」、同志社大学「人文学」、第193号、113-161ページ、2014年3月
 - ・岩坪健 「『三玉挑事抄』注釈 春部(下)・夏部」、同志社大学「人文学」、第194号、127-194ページ、2014年11月
 - ・岩坪健 「『三玉挑事抄』注釈 秋部(上)」、同志社大学「人文学」、第195号、239-292ページ、2015年3月・
 - ・岩坪健 「『三玉挑事抄』注釈 秋部(下)」、同志社大学「人文学」、第196号、99-153ページ、2015年11月
 - ・岩坪健 「『三玉挑事抄』注釈 冬部(上)」、同志社大学「人文学」、第197号、ページ数未定、2016年3月予定
 - ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(1)」、同志社大学「社会科学」第43巻3号、27-51ページ、2013年11月
 - ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(2)」、同志社大学「社会科学」第43巻4号、39-61ページ、2014年2月・
 - ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(3)」、同志社大学「社会科学」第44

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

巻1号、17-49ページ、2014年5月

- ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(4)」、同志社大学「社会科学」第44巻2号、1-31ページ、2014年8月
- ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(5)」、同志社大学「社会科学」第44巻3号、1-26ページ、2014年11月
- ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(6)」、同志社大学「社会科学」第44巻4号、57-85ページ、2015年2月
- ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(7)」、同志社大学「社会科学」第45巻1・2号、49-87ページ、2015年8月
- ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(8)」、同志社大学「社会科学」第45巻3号、1-30ページ、2015年11月・
- ・岩坪健・矢野環・福田智子 「竹幽文庫蔵『源氏千種香』の紹介(9)」、同志社大学「社会科学」第45巻4号、ページ数未定、2016年2月予定・
- ・岩坪健 「源氏流いけばな」、『源氏流いけばな』(兵庫県赤穂市立歴史博物館、平成27年度特別展の図録)、2ページ、平成27年11月・
- ・垣見修司 「やまとの一本薄考」、『同志社国文学』80号、pp1-12、2014年3月
- ・垣見修司 「調使首作歌と調使家記」、『同志社国文学』81号、pp46-56、2014年11月
- ・垣見修司 「万葉集卷十三・三二四二歌難訓考・行靡闕矣・吾通道之-」、『同志社国文学』84号、pp1-15、2016年3月予定・

テーマ4:

- ・宮澤和俊 「稼得能力分布と経済成長」、『経済学論叢』、65巻4号、157-191、2013年度
- ・Miyazawa, K. (2014) "Grandparental child care, child allowances, and fertility", Center for the Study of the Creative Economy Discussion Paper Series 2014-03, 1-16.
- ・宮澤和俊 (2016) 「養育財生産、技術的補完、および出生率動学」、『経済学論叢』、67巻4号(近刊)
- ・Ojima, F., Arnaud Lefranc, Yoshida, T. "Intergenerational earnings mobility in Japan among sons and daughters: levels and trends", Journal of Population Economics, Volume 27, Issue 1, pp 91-134, 2014年1月
- ・尾嶋史章・荒牧草平・轟亮、「高校生の進路希望と生活・社会意識の変容—30年の軌跡—」尾嶋史章・荒牧草平編『現代高校生の進路と生活—3時点学校パネル調査からみた30年の軌跡—』1-31ページ、同志社大学
- ・川口章 「日本経済における女性活躍の課題—日本的雇用制度に着目して—」『日本労務学会誌』第16巻、第1号、125-137ページ、2015年6月(査読無、単著)
- ・Kawaguchi, A., Okudaira, H., Kinari, Y., Mizutani, N., Ohtake, F.(共著) "Older Sisters and Younger Brothers: The Impact of Siblings on Preference for Competition," Personality and Individual Differences, vol. 82, pp. 81-89. 2015年8月(査読有、共著)・
- ・Kawaguchi, A. "Internal Labor Markets and Gender Inequality: Evidence from Japanese Micro Data, 1990–2009," Journal of the Japanese and International Economies, vol.38, pp. 193-213. 2015年9月(査読有、単著)
- ・横山勝彦・黒澤寛己共著 「運動部活動を活用した教師力向上政策—『教師教育』を視点に—」、同志社スポーツ健康科学、第7号、1-8ページ、2015年6月

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

- ・横山勝彦・鳥羽賢二・来田宣幸共著、「トップアスリートのキャリアトランジション支援策の検討ー NEC の社会起業家育成事業を参照にー」、同志社スポーツ健康科学、第 6 号、38-46 ページ、2014 年 6 月
- ・横山勝彦・有吉忠共著、「スポーツ観戦とソーシャル・キャピタル形成についての一考察：経験価値を視点に」、同志社スポーツ健康科学、第 5 号 1-8 ページ、2013 年 9 月
- ・横山勝彦・向山昌利・来田宣幸共著、2013 年 9 月「人材育成とスポーツ教育プログラムの構築：国際交流スポーツイベントを事例に」、同志社スポーツ健康科学、第 5 号、28-38 ページ、
- ・横山勝彦・黒澤寛己・有山篤利共著「中学校武道必修化に向けての柔道指導プログラムの開発」、京都滋賀体育学研究第 29 巻第 1 号、23-28 ページ、2013 年 7 月
- ・横山勝彦・内田和寿共著「スポーツによる地域活性化ー女性のスポーツ活動に着目してー」、京都滋賀体育学研究第 29 巻第 1 号、1-11 ページ、2013 年 7 月

<図書>

テーマ 2:

- ・伊多波良雄「異なる公的年金制度への加入と幸福度」橘木俊詔著『幸福』ミネルヴァ書房、所収、2014 年 3 月、93-111 ページ
- ・伊多波良雄「行財政論」近畿都市学会編『都市構造と都市政策』古今書院、222-23 ページ、2014 年 3 月
- ・Itaba, Y. “What do People think about Basic Income in Japan?” in Basic Income in Japan, Vanderborcht and Yamamori (eds.) Palgrave Macmillan, 2014, Oct.
- ・伊多波良雄・川浦昭彦・原田禎夫『基礎から学ぶ財政学』晃洋書房、2016 年 3 月 出版予定
- ・川浦昭彦「公正な選挙は民主的で安定した社会を保証できるかータイ、トルコを例に」同志社大学政策学部10周年記念出版編集委員会(編)『政策学ブックレット①民主主義再生のためにすべきこと』学芸出版社、2014 年 3 月 22-31 ページ
- ・佐々木雅幸・川井田祥子・萩原雅也 『創造農村: 過疎をクリエイティブに生きる戦略』共編著 学芸出版社、2014 年

テーマ 3:

- ・八木匡、淵上智信(2015)、「人財育成における内発的動機形成の重要性と能力開発における新たな方法論」Quality Education, Vol. 7.
- ・Yagi, T. “Happiness and Employment Status” (with Urakawa, K., Yonezaki, K.), Tachibankai, T., eds. Advances in Happiness Research: A Comparative Perspective, Springer, January 2016.
- ・河島伸子「ユーザーの創作活動と著作権法の相克」河島伸子・生稲史彦著 『変貌する日本のコンテンツ産業』2013 年 ミネルヴァ書房
- ・河島伸子「現代美術と著作権法ーインセンティブ論に関する一考察」同志社大学知的財産法研究会『知的財産法の挑戦』弘文堂 2013 年
- ・Kawashima, N. “Copyright as an Incentive for Creativity? The case of contemporary visual arts”, in Janet Chan and Kerry Thomas (eds), Handbook of Research on Creativity, Edward Elgar, 2013
- ・Kawashima, N. “Copyright as an Incentive for Creativity? The case of contemporary visual arts”, in Janet Chan and Kerry Thomas (eds), Handbook of Research on Creativity, Edward Elgar, 2013
- ・Kawashima, N. “The Film Industry in Japan – Prospering without active support from the state?” Hye-Kyung Lee and Lorriane Lim (eds), Cultural Polies in East Asia, Palgrave

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

Macmillan 2014

- ・河島伸子 「文化は人を幸せにするのか」橋木俊詔編著『幸福』ミネルヴァ書房
2014年
- ・Kawashima, N. The Film Industry in Japan-Prospering without active support from the state?, Hye-Kyung Lee and Lorraine Lim (eds), Cultural Policies in East Asia, Palgrave Macmillan
- ・河島伸子「コンテンツ産業として見た広告表現制作」水野由多加他編著『広告コミュニケーションハンドブック』有斐閣、2016年、365-381ページ。
- ・植木朝子 梁塵秘抄、348頁(筑摩書房)、2014年10月
- ・岩坪健 『源氏物語の享受—注釈・梗概・絵画・華道—』、和泉書院、全819ページ(単著)、2013年2月、第15回紫式部学術賞受賞(2014年5月)
- ・岩坪健 『源氏物語 河海抄』(冷泉家時雨亭叢書 99)、朝日新聞社、3-32ページ(岩坪担当分)、小高道子と共著、2015年6月
- ・岩坪健 『「しのびね物語」注釈』、和泉書院、全362ページ(単著)、2015年12月
- ・垣見修司、坂本信幸、新谷秀夫、関隆司、田中夏陽子、井ノ口史 高岡市万葉歴史館編『越中万葉をたのしむ 越中万葉かるた 100首と遊び方』笠間書院、p10、p41、p50、p60、p68、p105、2014年3月

テーマ4:

- ・宮澤和俊(2015)「家族の経済学」、経済セミナー増刊「総力ガイド！これからの経済学—マルクス、ピケティその先へ—」所収。
- ・川口章「女性活躍推進政策—法制化と残された課題」、同志社大学大学院総合政策科学研究科編
- ・川口章『政策科学の現在』、晃洋書房、2016年3月刊行予定(ページ未定)(査読無、単著)
- ・横山勝彦 「中学校体育実技指導資料 初めての柔道指導 改訂版」・武道教育研究会、2013年3月
- ・横山勝彦、石井智、伊吹勇亮 「スポーツ広報とソーシャル・キャピタル」・「スポーツ施設におけるコミュニケーションとソーシャル・キャピタル形成」研究報告書・日本広報学会、2014年2月
- ・橋木俊詔 『学歴入門(14歳の世渡り術)』河出書房新社、東京、2013年
- ・橋木俊詔 『夫婦格差社会—二極化する結婚のかたち』中央公論新社、2013年(迫田さやかと共著)
- ・橋木俊詔 『「機会不均等」論』PHP研究所、東京、2013年
- ・橋木俊詔 『「幸せ」の経済学』岩波書店、東京、2013年
- ・橋木俊詔 『宗教と学校』河出書房新社、東京、2013年
- ・橋木俊詔 『脱「成長」戦略—新しい福祉国家へ』岩波書店、東京、2013年(広井良典と共著)
- ・橋木俊詔 『公立 vs 私立』ベスト新書、東京 2014年
- ・橋木俊詔 『幸福』編著、ミネルヴァ書房、京都、2014年
- ・橋木俊詔 『実学教育改革論』、日本経済新聞出版社、東京、2014年
- ・橋木俊詔 『来るべき経済学のために』人文書院、京都、2014年(根井雅弘と共著)
- ・橋木俊詔 『経済学部タチバナキ教授が見たニッポンの大学教授と大学生』東洋経済新報社、東京、2015年
- ・橋木俊詔 『共生社会を生きる』編著、晃洋書房、京都、2015年
- ・橋木俊詔 『21世紀資本主義を読み解く』宝島社、東京、2015年
- ・橋木俊詔 『フランス産エリートはなぜ凄いのか』中公新書クラレ、東京、2015年
- ・橋木俊詔 『日本人と経済』東洋経済新報社、東京、2015年
- ・橋木俊詔 『変革の鍵としてのジェンダー』ミネルヴァ書房、2015年(落合恵美子と共編)

<学会発表>

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

テーマ1:

- ・'Fujimoto, M. "The power of continuity, learning from a long established company',5th STAJE" in Stanford University, 2013.9.
- ・'藤本昌代 「高流動性社会における転職・解雇・倒産に対する社会的ネットワーク— 公私の社会圏の交差—」第86回日本社会学会大会(於 慶應義塾大学),2013年10月
- ・'Fujimoto, M. 'Social Mobility and Organizational Commitment of Professionals : Comparison among Japan / US / France',ISA RC52 Sociology of Professionals in Technical University of Lisbon, Portugal ,2013.11.
- ・'藤本昌代 「社会に貢献する実践的科学技術の追求:島津製作所の経営理念の伝播」The Ninth Annual Conference of the Asian Studies Association of Hong Kong, 2014.3.
- ・'Fujimoto, M. 'Mutual Trust both in Work Place and Private Place at Different Social Mobility' Workshop co-organized with Doshisha university "Towards French-Japanese Research Collaborations in Social Sciences",École des hautes études en sciences sociales (EHESS), 2014.3.
- ・'Fujimoto, M., 'Social Reality and Expectation for Turnover to Start Up Companies'The Conference of 6th STAJE(Stanford Project on Japanese Entrepreneurship) in Stanford University,2014.6.
- ・'Fujimoto, M. Relationship Between Social Mobility and Job and Life Satisfaction: A Case of Scientists and Engineers' Society for the Advancement of Socio-Economics Annual Meeting in Northwestern University & the University of Chicago, 2014.7.
- ・'Fujimoto, M. Work Motivation and Social Networking Development in Professional's Job Change Behavior: A Comparison Between the U.S. and Japan'International Sociology Association Annual Meeting in Yokohama, JAPAN, 2014.7.
- ・'藤本昌代 「専門職の志向と働きがい ～ライフイベントと仕事との両立～」医療マネジメント学会 第12回京滋支部学術集会 基調講演, 2015年2月
- ・'Fujimoto, M. Possibilities of Job Acceptance and Selective Job Change of Local Employees at Asian Subsidiaries of Multinational Companies : Case Study of Asian Region Expansion by Japanese Originated Companies',Society for the Advancement of Socio-Economics, London,LSE, 2015.07.
- ・'Fujimoto, M. Penetration of the Management Philosophy to the Local Employee in the Asian Subsidiary of Japanese Companies, and the Next Propagation'IUAES 2015(Re-imagining Anthropology and Sociological Bordaries Thammasat University,Bangkok, 2015.7 .
- ・'Fujimoto, M. The Choice of the Employee in the Multinational Enterprise : Similarity of High Skill Professionals and the Factory Workers',12th Conference of the European Sociological Accosiation 2015, Czech Technical University in Prague ,Prague, 2015.8.
- ・'Fujimoto, M. Innovation and Mobility: Difference of Behavior & Norm of Scientists & Engineers in Variety of Social Environment',Séminaire CEAFJP de Fondation France-Japon de l'École des hautes études en sciences sociales (EHESS), 2015.10.
- ・'竹廣良司 公開シンポジウム、パネリスト参加 「幸福感に繋がるヘルシーライフスタイルを考える」同志社大学創造経済研究センター主催 , 2016年3月3日・
- ・'宿久洋、阿部寛康 「気象および地理情報による竜巻発生予測」科研費シンポジウム空間データと災害の統計モデル, 2015年12月, 同志社大学
- ・'宿久洋、高岸茉莉子 「関数データ解析法による放射線モニタリングで得られたデータの解析について」科研費シンポジウム空間データと災害の統計モデル, 2015年12月, 同志社大学
- ・'Yadohisa, H., Tsuchida, J. "Bayesian Asymmetric Multidimensional Scaling for Two-mode Three-way Count Data by Using Log-linear Model", The 9th Conference of the Asian Regional Section (ARS) of the International Association for Statistical Computing (IASC), 2015, December, Shingapore
- ・'宿久洋、阿部寛康 「零過剰複合ポアソン分布に基づく非負値行列の Tri-factorization につい

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

- て」, 日本計算機統計学会第 29 回シンポジウム, 2015 年 11 月, 釧路市生涯学習センター
- ・Yadohisa, H., Abe, H. "Automatic Relevance Determination in NMF based on a Zero-Inflated Compound Poisson Model", 2015 International Workshop for JSCS 30th Anniversary in Okinawa, 2015, October, Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University
 - ・Yadohisa, H., Tsuchida, J. "Canonical correlation analysis for three-mode three-way data", The 2015 conference of the International Federation of Classification Societies, 2015, July, Bologna, Italy
 - ・Yadohisa, H., Tsuchida, J. "Bayesian unfolding for count data by using log-linear model", Statistical Computing Asia, 2015, June, Taipei, Taiwan
 - ・Yadohisa, H., Tanioka, K. "K-mode clustering with dimensional reduction for categorical data", European Conference on Data Analysis 2014, July, Bremen, Germany
 - ・宿久洋、高岸茉莉子、谷岡健資 「雑音を考慮した独立成分分析混合モデルについて」, 日本計算機統計学会第 28 回大会, 2014 年 5 月, 中央大学
 - ・Yadohisa, H., Takagishi, M., Hirotsuru, K., Kusaka, T., Mitsuhiro, M. "Educational feature extraction across nations using UNdata", Proceedings of Joint meeting of the IASC satellite conference for the 59th ISI WSC and the 8th conference of the asian regional section of the IASC, 2013, July, Seoul, Korea
 - ・Yadohisa, H., Tanioka, K. "Ultrametric tree representation for three-way three-mode data with weights of variables and occasions", conference of the International Federation of Clasifidation Societies, 2013, July, Tilburg, the Netherlands

テーマ 2:

- ・伊多波良雄、山崎その、宮嶋恒二 報告「大学経営効率化に関するアンケート調査から」, 大学行政学会 第 17 回定期総会・研究集会(於 東京電機大学), 2013 年 9 月 8 日
- ・伊多波良雄、山崎 その、宮嶋 恒二 報告「大学のガバナンスと経営効率」, 日本評価学会第 11 回全国大会(JICA地球広場), 2014 年 5 月 31 日
- ・伊多波良雄、山崎 その、宮嶋 恒二 報告「大学におけるガバナンスと経営効率との関係性の実証研究」, 日本高等教育学会第 17 回大会実行委員会(大阪大学)2014 年 6 月 28 日
- ・伊多波良雄、山崎 その、宮嶋 恒二 報告「学長のリーダーシップと大学経営」 大学行政学会, 第 18 回定期総会・研究集会(東北学院大学), 2014 年 9 月 7 日
- ・伊多波良雄 報告 "Dose City Size affect Happiness?" International Conference Comparative Study on Happiness, EHESS, Paris, 16-17 October, 2014.
- ・伊多波良雄 講演「2020 東京オリンピック・パラリンピックの経済的インパクト」スポーツ科学研究所設立記念シンポジウム(アルカディア市ヶ谷), 2014 年 11 月 8 日
- ・伊多波良雄 パネリスト参加 『京都市政史』全巻刊行記念シンポジウム「明治から平成へ」(京都アスニー), 2015 年 3 月 21 日
- ・伊多波良雄 報告"Evidence of the Effect of Local Government Size on Happiness in Japan", Proceedings of the 71th Annual Congress of the International Institute of Public Finance, Dublin, Ireland, 2015 年 8 月 22 日、トリニティカレッジ
- ・伊多波良雄、山崎 その、宮嶋 恒二 報告「大学経営の効率性を高める方策の検討」日本評価学会第 16 回全国大会、2015 年 12 月 13 日(日)、 場所: JICA 沖縄国際センター
- ・伊多波良雄 講演「街かど大学」(2015 年度 同志社大学プロジェクト科目)講演「私たちの幸福感を決めるのは何か? また、これから何を学ぶのか?」2016 年 1 月 14 日、キララ館(キララ商店街)近鉄新田辺駅徒歩 1 分
- ・Kawaura, A. "The Very Short Tenure of Foreign Players in Japanese Professional Baseball, 1951-2004" World Economic History Congress(京都国際会館、2015 年 8 月)にて Sumner LaCroix と共同報告
- ・佐々木雅幸 報告 "Creative Cities in Japan: It's Diversity and Network" アジア欧州会議 ASEM2014 の文化大臣会合 オランダのロッテルダム, 2014 年 10 月 20-21 日

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

- ・佐々木雅幸 基調報告 "Creative Cities of the 21century: Their Diversity and Network"ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会, 2015年5月26日

テーマ3:

- ・Kawashima, N. 'Development of Cultural Economics in Japan-A Literature Review and Implications for International Research', International Conference on Cultural Economics, June2014, Montreal, Canada.
- ・河島伸子 「文化経済学の発展と今後」会長講演、文化経済学会(日本), 2014年7月
- ・Kawashima, N. Japanese Food and Cuisine-A Rising Star in Cool Japan Strategy?, IP Rights in Developing Countries, September 2014, Vietnam National University of Social Sciences and Humanities, Ho Chi Minh City, Vietnam.
- ・Kawashima, N. The Film Industry in Japan-Sustainable without Protection?', International Conference on Cultural Policy Research, September 2014, Hildesheim, Germany.
- ・Kawashima, N. Impact of the Arts and Culture on Happiness-Beyond Methodological Issues', Comparative Study on Happiness, October 2014, Paris.
- ・Kawashima, N. Development of Socially Engaged Art in Japan—From Policy and Economic Perspectives', UW-JSPS Joint Symposium on Socially Engaged Art in Japan, University of Washington, November 2016.
- ・Kawashima, N. 'An Overview of Cultural Policies in East Asia', 2015 Asia Culture Forum, 韓国・光州、2015年11月
- ・植木朝子・菅野扶美・藤原享和・野川美穂子・末次智「日本歌謡学とは何か—その課題と展望—」日本歌謡学会春季大会、於関西外国語大学、2013年5月19日
- ・植木朝子・永池健二・辻浩和 流行歌の時代—今様を中心に—」藝能史研究会東京例会、於国立能楽堂 大講義室、2014年12月7日・
- ・垣見修司 「やまとの一本薄考」、同志社大学国文学会、2013年11月、同志社大学
- ・奥田以在 「近代京都における「町」の役割と町内自治のシステム」同志社大学人文科学研究所第15研究会、2013年9月、於同志社大学
- ・Miyazawa, K. "A debt management rule, fertility, and growth", International Institute of Public Finance, Lugano, Switzerland, 2014年8月.
- ・宮澤和俊 "Grandparental childcare, child allowances, and fertility", 日本応用経済学会, 中央大学, 2014年11月
- ・Miyazawa, K. "A debt management rule, fertility, and growth", Western Economic Association International, Wellington, New Zealand, 2015年1月.
- ・Miyazawa, K. "Grandparental child care, child allowances, and fertility", Western Economic Association International, Hawaii, US, 2015年6月.
- ・Miyazawa, K. "Grandparental child care, child allowances, and fertility", International Institute of Public Finance, Dublin, Ireland, 2016年8月.
- ・宮澤和俊 「少子化対策としての国債管理政策」、日本応用経済学会(招待講演),
- ・宮澤和俊 経済研究会, "Life-cycle earnings and economic growth", 名古屋大学, 2013年4月.
- ・宮澤和俊, Nagoya Macroeconomics Workshop, "Life-cycle earnings and economic growth", 椙山女学園大学, 2013年5月.
- ・宮澤和俊 経済ワークショップ, 「在職老齢年金と高齢者就業」, 長崎大学, 2013年8月.
- ・宮澤和俊, Nagoya Macroeconomics Workshop, "A debt management rule, fertility, and growth", 名古屋大学, 2013年11月.
- ・宮澤和俊 経済研究会 "A debt management rule, fertility, and growth", 法政大学, 2014年2月.
- ・Miyazawa, K. Tilburg-Nagoya Workshop on Population Economics, "Life-cycle earnings

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

and economic growth", Tilburg University, 2014 年 3 月.

- ・宮澤和俊, 研究会, "Child labor, fertility, and income inequality", 名古屋大学, 2014 年 5 月.
- ・宮澤和俊, 公共経済研究会, "A debt management rule, fertility, and growth", 中京大学, 2014 年 6 月.
- ・宮澤和俊, Nagoya Macroeconomics Workshop, "Altruism for grandchildren and fertility dynamics", 中京大学, 2014 年 7 月.
- ・宮澤和俊, Kobe Macroeconomics Study Group, "Grandparental childcare, child allowances, and fertility", 関西学園大学, 2014 年 8 月.
- ・宮澤和俊, 研究会, "Grandparental childcare, child allowances, and fertility", 名古屋大学, 2014 年 9 月.
- ・宮澤和俊, グローバル市場経済ワークショップ, "Capacity constraints on public childcare, fertility, and economic growth", 名古屋大学, 2015 年 8 月.
- ・Miyazawa, K. International Workshop on OLG and CGE, "Childcare production, technological complementarity, and fertility dynamics", 名古屋市立大学, 2015 年 10 月.
- ・Ojima, F. Arnaud Lefranc and Yoshida, T., "Intergenerational earnings mobility in Japan among sons and daughters: levels and trends" ISA RC28, Trento Meeting, 2013, May 16.
- ・Ojima, F. Fathers' Income and Educational Attainment: An Analysis on Trends in Educational Opportunity with the Predicted Fathers' Income, ISA RC28, Budapest Meeting, 2014, May 8.
- ・Ojima, F. Economic Return to Education in Japan: New Approach using Pooled Replicated Survey Data, ISA RC28, Budapest Meeting, 2015, August 18.
- ・横山勝彦, 米村真悟 「組織におけるコーポレート・コミュニケーションの必要性ー広報人材と大学スポーツサークル人材の類似性を視点にー」・日本広報学会第20回研究発表全国大会東海大学・熊本キャンパス・2014 年 9 月
- ・横山勝彦, 黒澤寛己 「運動部活動の広報機能ー広報人材としての価値を視点にー」・日本広報学会第20回研究発表全国大会・2014 年 9 月・東海大学熊本キャンパス
- ・横山勝彦, 松本綾子 「ユースオリンピックにおける文化・教育プログラムのー考察ースポーツを通じた開発を視点にー」・第 24 回日本体育・スポーツ政策学会・2014 年 12 月・東京芸術大学
- ・横山勝彦, 松村利子 「運動部活動の指導者養成に関するー考察ー」・日本体育・第25回大会スポーツ政策学会・2014 年 12 月・東京芸術大学
- ・横山勝彦, 黒澤寛己 「運動部活動の指導者養成ー「教師教育」の視点からー」・第25回大会日本体育・スポーツ政策学会・2014 年 12 月・東京芸術大学
- ・横山勝彦, 米村真悟 「CSV 経営に向けたスポーツ広報の可能性」・日本広報学会第21回研究発表全国大会・2015 年 9 月・東京大学駒場キャンパス
- ・横山勝彦, 小林壘 「地方自治体広報のコミュニケーション戦略のー考察ーパブリック・アクセスを活用したスポーツ広報を視点にー」・日本広報学会第 21 回研究発表全国大会・2015 年 9 月・東京大学駒場キャンパス
- ・横山勝彦, 黒澤寛己, 伊吹勇亮, 相原正道, 石井智, 小野豊和, 川戸和英, 尾原弘恭 「日本的経営とスポーツ広報」・日本広報学会第 21 回研究発表全国大会・2015 年 9 月・東京大学駒場キャンパス
- ・横山勝彦, 小林壘 「『スポーツ公共放送』の政策分析 -『アクセス理念』を視点に-」・第25回日本体育スポーツ政策学会・2015 年 12 月・東京学芸大学
- ・横山勝彦, 小林壘 「『共通価値』創出に寄与するスポーツ文化の可能性-企業の経営戦略論を視点に-」・第25回日本体育スポーツ政策学会・2015 年 12 月・東京学芸大学
- ・横山勝彦, 黒澤寛己 「運動部活動の指導と評価に関するー考察ー-体育科教育の視点からの政策提言-」・第25回日本体育スポーツ政策学会・2015 年 12 月・東京学芸大学

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

＜研究成果の公開状況＞（上記以外）

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等
ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

同志社大学創造経済研究センター ホームページ: <http://csce.doshisha.ac.jp/>

＜既に実施しているもの＞

テーマ1:

・公開シンポジウム「心理・行動・生体情報融合データ科学シンポジウム」2015年11月21日

テーマ2:

・公開シンポジウム「多文化共生に関するシンポジウム」2014年6月10日

・公開シンポジウム「多文化共生に関するシンポジウム2 “Being Now” 共同体と人間性と聖なるもの」2015年6月8日

・公開シンポジウム「異文化受容による新芸術創造 - 都市に求められる多様性の本質」2015年11月7日

テーマ3:

・国際ワークショップ第1回「グローバル化する文化創造 - 創造産業政策の今後」2013年12月15日、16日

・国際ワークショップ第2回「グローバル化する文化創造 - 創造産業政策の今後」2014年7月9日 - 11日

・公開シンポジウム・ワークショップ「世界から見た日本の真髄 - 秘められたる日本文化の無限の可能性 -」2014年11月2日、3日

・公開シンポジウム「今に生きる万葉 額田王 - 音楽と語りによる創作ステージ -」(共催)2014年12月23日、24日

・公開シンポジウム「古典の美が創る京都の魅力」2015年10月10日

テーマ4:

・公開シンポジウム「学歴社会の実像と虚像」2013年11月4日

・公開シンポジウム「目指すべき未来社会と望ましい人材育成政策」2014年5月25日

・公開シンポジウム「ソーシャルビジネスと信頼を基盤とした社会の構築～リスク社会を乗り越えるための試み～」(共催)2015年5月9日

・公開シンポジウム「幸福感に繋がるヘルシーライフスタイルを考える」2016年3月3日

＜これから実施する予定のもの＞

テーマ2:

・国際カンファレンス「Community, Humanity and the Sacred (仮称)」2016年6月5日、6日

テーマ3:

・「源氏物語」をテーマとした公開シンポジウム(名称未定)2016年11月19日

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

<「選定時」に付された留意事項>

研究の意義は大きいですが、対象が拡散し、統一性に欠けるので留意すること。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

4つの研究部門が相互に連携を行い、研究成果の共有を進めており、研究メンバー同士の情報交換および研究討議を行っている。そのため、創発効果が大きく出てきており、専門の枠内に留まらない、学際的研究発展が進んでいると理解している。多くの研究メンバーは、複数の研究会に同時に入っており、それぞれの研究会での成果を共有できるようにしている。

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他()	
平成 25 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	40,000	20,000	20,000				
平成 26 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	35,100	17,550	17,550				
平成 27 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	39,300	19,650	19,650				
総 額	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	114,400	57,200	57,200	0	0	0	
総 計	114,400	57,200	57,200	0	0	0	0	

施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施 設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。) (千円)

施 設 の 名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
良心館2階 共同研究室	既存	112m ²	1		既存	無	無

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

(様式1)

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

研究費の支出状況(千円)

年度	平成 25 年度 テーマ1			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な用途	金額	主な内容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	224	文具雑費	224	文具、コピー用紙
光熱水費	0		0	
通信運搬費	1	郵便料	1	研究資料・シンポジウム資料郵送
印刷製本費	0		0	
旅費交通費	573	研究旅費	573	学会参加等に係る国内・海外出張費、招聘に係る旅費
報酬・委託料	875	謝礼	875	学外有識者への専門的知識の供与謝礼
(その他)	3,943	機器備品、図書費	3,943	パソコン、書籍、ソフトウェア
計	5,616		5,616	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0		0	
教育研究経費支出	0		0	
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	0		0	
図 書	0		0	
計	0		0	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	0		0	
ポスト・ドクター	1,500	特別研究員	1,500	学内1人
研究支援推進経費	0		0	
計	1,500		1,500	学内1人

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

年 度	平成 25 年度 テーマ2		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	165	文具雑費	165
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	0		0
印 刷 製 本 費	880	印刷費	880
旅 費 交 通 費	67	研究旅費	67
報 酬 ・ 委 託 料	4,647	謝礼、委託費	4,647
(その他)	2,748	機器備品、図書費、雑費	2,748
計	8,507		8,507
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出	0		0
(兼務職員)	0		0
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	499	教育研究用機器	499
図 書	0		0
計	499		499
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0

年 度	平成 25 年度 テーマ3		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	995	文具雑費	995
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	7	郵便料	7
印 刷 製 本 費	0		0
旅 費 交 通 費	1,610	研究旅費	1,610
報 酬 ・ 委 託 料	5,011	謝礼、委託費	5,011
(その他)	2,239	機器備品、図書費、雑費	2,239
計	9,862		9,862
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出	607		607
(兼務職員)	0		0
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0
計	607		607
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	1,528	教育研究機器	1,528
図 書	0		0
計	1,528		1,528
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	240	リサーチ・アシスタント	240
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	240		240

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

年 度	平成 25 年度 テーマ4		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	345	文具雑費	345
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	108	郵便料	108
印 刷 製 本 費	2	印刷費	2
旅 費 交 通 費	3,270	研究旅費	3,270
報 酬 ・ 委 託 料	3,917	謝礼、委託費	3,917
(その他)	2,027	機器備品、図書費、雑費	2,027
計	9,669		9,669
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	472	教育研究機器	472
図 書	0		0
計	472		472
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	1,500		1,500
研究支援推進経費	0		0
計	1,500		1,500

年 度	平成 26 年度 テーマ1		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	167	文具雑費	167
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	1	郵便料	1
印 刷 製 本 費	4		4
旅 費 交 通 費	575	研究旅費	575
報 酬 ・ 委 託 料	432	謝礼、委託費	432
(その他)	472	機器備品、図書費	472
計	1,651		1,651
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	3,000		3,000
研究支援推進経費	0		0
計	3,000		3,000

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

年 度	平成 26 年度 テーマ2		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	77	文具雑費	77
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	52	郵便料	52
印 刷 製 本 費	931	印刷費	931
旅 費 交 通 費	842	研究旅費	842
報 酬 ・ 委 託 料	4,701	謝礼、委託費	4,701
(その他)	1,664	図書費、雑費	1,664
計	8,267		8,267
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0

年 度	平成 26 年度 テーマ3		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	367	文具雑費	367
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	9	郵便料	9
印 刷 製 本 費	579	印刷費	579
旅 費 交 通 費	2,365	研究旅費	2,365
報 酬 ・ 委 託 料	5,313	謝礼、委託費	5,313
(その他)	1,885	図書費、雑費	1,885
計	10,518		10,518
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,129		1,129
教育研究経費支出	0		0
計	1,129		1,129
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	400		400
ポスト・ドクター	3,000		3,000
研究支援推進経費	0		0
計	3,400		3,400

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

年 度	平成 26 年度 テーマ4			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	62	文具雑費	62	文具、コピー用紙
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	1	郵便料	1	研究資料・シンポジウム資料郵送
印 刷 製 本 費	162	印刷費	162	シンポジウム用広報物・資料印刷費
旅 費 交 通 費	1,521	研究旅費	1,521	学会参加等に係る国内・海外出張費
報 酬 ・ 委 託 料 (その他)	1,758	謝礼	1,758	学外有識者への専門的知識の供与謝礼
	631	機器備品、図書費、雑費	631	パソコン、書籍、ソフトウェア、英文校閲費
計	4,135		4,135	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0		0	
教育研究経費支出	0		0	
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	0		0	
図 書	0		0	
計	0		0	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	0		0	
ポスト・ドクター	3,000		3,000	外国1人
研究支援推進経費	0		0	
計	3,000		3,000	外国1人

年 度	平成 27 年度 テーマ1			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	454	文具雑費	454	メモリーカード、トナーカートリッジ
光 熱 水 費	0		0	
通 信 運 搬 費	112	郵便料	112	研究資料郵送
印 刷 製 本 費	0		0	
旅 費 交 通 費	279	研究旅費	279	学会参加に係る国内・海外出張費
報 酬 ・ 委 託 料 (その他)	3,280	謝礼、委託費	3,280	専門的知識の供与謝礼、調査委託費
	759	機器備品、図書費、雑費	759	パソコン備品、書籍、ソフトウェア、英文校閲費
計	4,884		4,884	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0		0	
教育研究経費支出	0		0	
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	2,195	教育研究機器	2,195	デジタルビデオカメラ、パソコン
図 書	0		0	
計	2,195		2,195	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	480		480	学内1人
ポスト・ドクター	0		0	
研究支援推進経費	0		0	
計	480		480	学内1人

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

年 度	平成 27 年度 テーマ2		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	126	文具雑費	126
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	53	郵便料	53
印 刷 製 本 費	550	印刷費	550
旅 費 交 通 費	1,010	研究旅費	1,010
報 酬 ・ 委 託 料	9,463	謝礼、委託費	9,463
(その他)	1,804	機器備品、図書費、雑費	1,804
計	13,006		13,006
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0

年 度	平成 27 年度 テーマ3		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	617	文具雑費	617
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	3	郵便料	3
印 刷 製 本 費	430	印刷費	430
旅 費 交 通 費	811	研究旅費	811
報 酬 ・ 委 託 料	4,190	謝礼、委託費	4,190
(その他)	1,319	機器備品、図書費、雑費	1,319
計	7,370		7,370
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	1,991		1,991
教育研究経費支出	0		0
計	1,991		1,991
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	227	教育研究機器	227
図 書	0	書籍、ソフトウェア	0
計	227		227
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	440		440
ポスト・ドクター	3,000		3,000
研究支援推進経費	0		0
計	3,440		3,440

法人番号	261010
プロジェクト番号	S1391010

年 度	平成 27 年度 テーマ4		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	18	文具雑費	18
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	0	郵便料	0
印 刷 製 本 費	57	印刷費	57
旅 費 交 通 費	158	研究旅費	158
報 酬 ・ 委 託 料	752	謝礼、委託費	752
(その他)	438	機器備品、図書費、雑費	438
計	1,423		1,423
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出	308		308
(兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	308		308
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	256	教育研究機器	256
図 書	0	書籍、ソフトウェア	0
計	256		256
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	720		720
ポスト・ドクター	3,000		3,000
研究支援推進経費	0		0
計	3,720		3,720